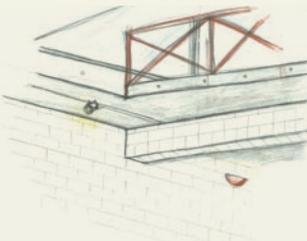


小さな敷地に無限のアイデア

～ 現代の匠を「狭小住宅」に見る～

施主家族の夢と、建築家の思いを重ね合わせて、コストや法規といった現実と折り合いながら、理想を目指すものが住宅建築です。その中でも敷地や構造に厳しい制約を伴った「狭小住宅」に息づく現代の匠の技を紹介し、困難を克服してそれを魅力に変える過程を明らかにします。



狭小住宅とは

狭小住宅とは狭い土地(20坪程度以下)に建てられた床面積の小さな住宅です。便利な都市部で広い家を持つのは難しいのが日本の実情です。

狭小敷地は三角形や変形地、古くからの密集地の間などあり、工法や法規、周辺とのプライバシー確保など多くの影響を受けます。そこで狭い敷地にどれだけ快適な生活空間を創造できるかがテーマとなります。こうした困難を逆手に取った狭小住宅は、現代社会のニーズにあった日本独自の住宅といえるのではないのでしょうか。



狭小住宅の特徴

◎ 住みたい場所に家を建てる

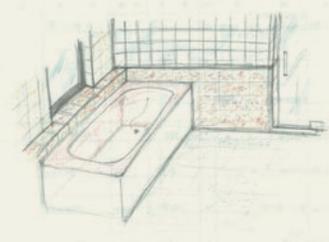
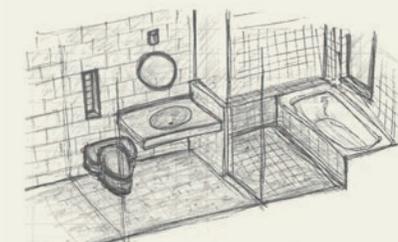
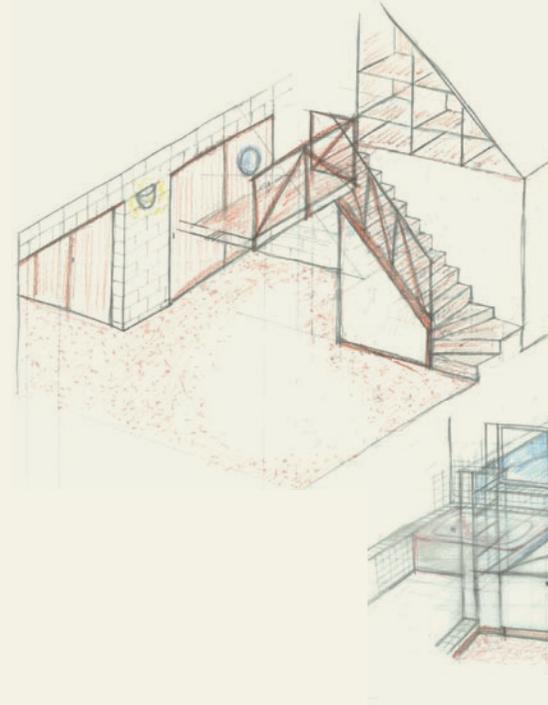
地価の高い都市部にも狭小住宅なら建てる事が可能になってきます。敷地を選ぶ上で環境に合わせる事、学校、会社の近くと言ったライフスタイルに合わせて住まいを考える事が可能になります。

◎ LOHASなライフスタイル

ライフスタイルとしてエコが注目を集めています。要らない物はもたないというシンプルなライフスタイルです。ミニマムな空間の狭小住宅は冷暖房の費用を抑える事ができます。料理をしながらリビングで遊ぶ子供の様子を見たり、家族中の気配を感じられる親しみやすいハイブリッド住宅になります。

◎ 建物にこだわりを持つ

土地代の負担をとことん軽くする事で建物自体に予算を廻して予算内で自分流のこだわりを持った住宅を実現できます。収納力にこだわったり、防音、防熱、耐震などの性能にこだわったり趣味を生かしたこだわり空間も実現可能になります。



クリエイターとしてのこだわり

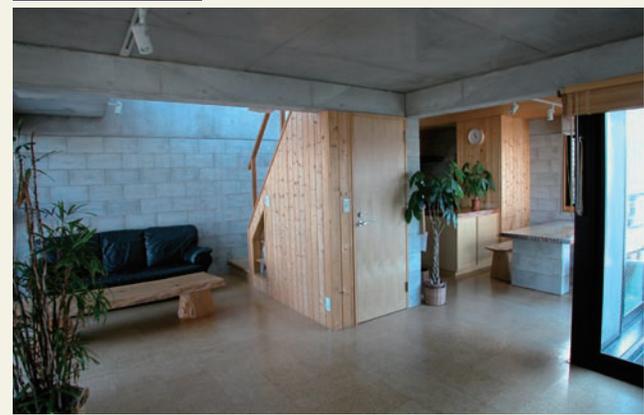
私は建築の「ゆとり」にこだわって設計しています。ひなたぼっこをしている感覚、気持ちの良い風を感じているといった心のゆとりが自分だけの最高の空間を創り、より豊かな人生が送れる事と思っています。狭小住宅は小さな遊び心がそのまま形となっているシンプルな建物です。そして、ノーと言わない事、お客様のニーズに限りなく近づく事が「お客様のゆとり」を見つけれられると信じています。

建築家として挑戦したいこと

積み木を片付けると、順序立てて意識的に仕舞うと隙間なく綺麗にかたづけられますが、何か無意識に箱に入れるとこぼれてしまい、隙間だらけになってしまいます。このこぼれた後の隙間の「間」に興味を感じてしまうのです。思うと民家の土間という空間、町屋の坪庭という空間もこういった種類の「間」で厳しい住居環境から人間らしい生活を維持し続けて来



たんだと思っています。茶室の「間」は限られた空間に広がりとお行きを持たせ広大な宇宙を取り込む装置でありました。情景における明暗であるとか、音、材料自体の質感、リズム、季節のうつろい等の趣きを広く大きく見せたり存在自体を和らげるエネルギーを秘めた「間」を意識的に操作して各空間に絡めて構成する。空間に一步踏み入れた時、肌で感じられる空気感、会話、語らいの中で生まれる豊かさを光、緑、水、風等の自然現象と「間」の二刀流で建築を表現していきたいと思います。




一級建築士事務所
アトリエ・モノグラフ
主宰 小川 浩之さん
住所: 〒165-0026 東京都中野区新井2-19-5
TEL 03-5380-5252
<http://www.a-mono.jp>

編集後記

モダンで都会的な建築の一つの様式であながら、空間の妙や、外なる自然を内へ取り込む感覚がとても日本的であることが理解できました。隙間の「間」、空間の「間」といった、

決して古くならない日本独自の空間思想を継承されている「現代の匠」を知る機会を得られたことを感謝いたします。